

**千葉大学医学部附属病院で
急性結石性胆管炎に対する内視鏡治療を受けられた
患者の皆様、ご家族の皆様へ**

2024年5月1日
消化器内科

消化器内科では、胆管結石に対する内視鏡治療における、自然脱落型胆管ステント留置の有効性に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に診療情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2018年4月1日～2024年4月30日の間に千葉大学医学部附属病院で急性結石性胆管炎に対する内視鏡治療を受けられた方

1. 研究課題名

「急性結石性胆管炎に対する ERCP における一次的処置と二次的処置を比較する後ろ向き比較試験」

2. 研究期間

2024年承認日～2029年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

胆管結石による急性胆管炎を起こすと敗血症から命にかかわることもあり、内視鏡による治療が推奨されています。内視鏡による治療の方法として、内視鏡的逆行性胆管膵管造影法(ERCP)を用いることが一般的です。胆管の出口である十二指腸乳頭から結石を引きずり出して排出し、ステントを留置して胆汁を排出するドレナージ治療を行います。初回の内視鏡処置で、胆管結石を全て除去してしまうほうが良いか、初回治療ではステント留置や経鼻胆道ドレナージチューブ留置などの胆道ドレナージを行って、二次的に結石除去を行ったほうが良いかについての結論は出ていません。この問題について、多数例での検討についての報告は少なく、今回、当院で検討を行うことにしました。この検討結果により、

急性結石性胆管炎治療の特徴が明らかになることで、今後の診療に役立つ可能性があるものと考えています。

4. 研究に用いる情報の種類

診療録に記載されている年齢、性別、日常生活自立度、生活歴（飲酒・喫煙など）、職業歴、既往歴、併用薬、家族歴、血液学的検査等の臨床検査結果、内視鏡検査時の情報、採取された検体の病理報告書の情報、内視鏡検査後の経過、外科手術検体の病理報告書の情報など。

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：腫瘍内科 助教 高橋 幸治

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院消化器内科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究についての相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院

腫瘍内科 助教 高橋 幸治

043(222)7171 内線6672